

# N8151-32A

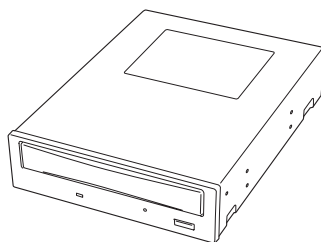
## 内蔵DVD-RAM装置

### 取扱説明書

## まえがき

本書は、N8151-32A 内蔵DVD-RAM装置 (以下「本装置」と呼びます) を正しく、安全に設置・使用するための手引きです。本装置を取り扱う前にお読みください。また、本装置を使用する上でわからないこと、不具合が起きたときにもぜひご利用ください。

本装置を取り扱う前に、本書の説明をよくお読みになり、正しく取り扱ってください。本書は、添付の『保証書』と一緒に大切に保管してください。



本装置を取り付ける装置の取り扱いについての説明は、取り付ける装置に添付のマニュアルを参照してください。

本装置を取り扱う前に3ページの「安全上のご注意」、6ページの「警告ラベルについて」、7ページに示す「使用上のご注意」を必ずお読みください。

本書は4つの章と付録(A～E)から構成されています。本装置を購入されてから初めて取り扱う場合は第1章から順に読んでください。本装置の取り扱い方法を知りたい場合は、第2章から読んでください。また、本装置に異常が起きた場合は第4章を参照してください。

次にそれぞれの章で説明している内容について簡単に説明します。

- |     |                             |   |
|-----|-----------------------------|---|
| 第1章 | はじめてお使いになるとき .....          | 本装置の特長や各部の名称と機能、装置への取り付け方法を順を追って説明します。                                    |
| 第2章 | 日常の使用方法 .....               | DVD-RAM/CD-ROM (以下ディスクと呼びます。) ディスクを本装置にセットする方法および取り出し方やデータの取り扱いについて説明します。 |
| 第3章 | クリーニング・装置の輸送 .....          | 本装置およびディスクのクリーニング方法について説明します。また、本装置を輸送するときの手順についても説明します。                  |
| 第4章 | 「故障かな?」と思ったときは .....        | 本装置が思うように動かないときは装置の故障を疑う前にまずここで示すチャートを参照してください。                           |
| 付録A | 仕様 .....                    | 本装置の仕様を記載しています。   |
| 付録B | ディスクについて .....              | ディスクの取り扱い方法について説明します。   |
| 付録C | 別売品 .....                   | 弊社で用意している別売品を紹介しています。   |
| 付録D | 推奨品 .....                   | 本装置での使用に適した推奨品を示します。  |
| 付録E | EXPRESSBUILDERの使用について ..... | Express5800シリーズに添付のソフトウェアCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用する際の注意事項について説明しています。    |

# 目次

まえがき .....	1
目次 .....	2
<b>△安全上のご注意 .....</b>	<b>3</b>
警告ラベルについて .....	6
使用上のご注意 .....	7
お手入れについて .....	8
本装置・消耗品の廃棄について .....	8

## 第1章 初めてお使いになるとき

～箱を開けてからお使いになれるまで～

本装置の特長 .....	9
箱の中身 .....	10
各部の名称と機能 .....	11
取り付け .....	13
デバイス設定ピン .....	14
ラッチングレールの取り付け .....	15
5.25インチデバイスベイへの 取り付け .....	16
インタフェースケーブルの接続 .....	19
電源ケーブルの接続 .....	20
自己診断の実行 .....	20
BIOSのチェック .....	21
デバイスドライバのインストール .....	21

## 第2章 日常の使用方法

電源のON/OFF .....	22
オープン/クローズボタンと ビジーインジケータ .....	22
ディスクのセット .....	23
ディスクのイジェクト .....	25
ディスクの手動イジェクト .....	26
データの書き込み・読み取り .....	27
取り扱い上の注意 ～大切なデータを守るために～ .....	27
データのバックアップ .....	27
ディスクのライトプロテクト .....	28
日常の保守(クリーニング) .....	28

## 第3章 クリーニング・装置の輸送

本装置のクリーニング .....	29
装置のクリーニング .....	29
レンズのクリーニング .....	29
ディスクのクリーニング .....	31
装置の移動・輸送について .....	31

## 第4章 「故障かな?」と思ったときは ..... 33

## 付録

A 仕様 .....	36
B DVD-RAMディスクについて .....	37
DVD-RAMディスクの 取り扱い上の注意 .....	37
C 別売品 .....	38
D 推奨品 .....	39
E EXPRESSBUILDERの使用について .....	40

## 安全上のご注意

ご使用前にこの「安全上のご注意」をよく読んでご理解し、本装置をより安全にご活用ください。ここに示した注意事項は本装置を安全にお使いいただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するものです。また、注意事項では、危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されています。



**警告**

指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



**注意**

指示を守らないと、火傷やけがのおそれ、および物的損害の発生のおそれがあることを示します。

また、注意事項の説明の中では、絵表示を使用して注意の内容を表しています。絵表示の意味は次のとおりです。



分解禁止



感電注意



発火注意



レーザー光注意



特定しない一般的な禁止事項



特定しない一般的な注意・警告



プラグを抜いて!!

次に本装置を安全に取り扱うために守っていただきたい注意事項を示します。お客様への危害や財産への損害を未然に防止するためにも必ず守ってください。また、これらの注意事項は本文中でも必要に応じて記載されています。



**警告**

### 分解・修理・改造はしない

修理技術者以外の人は、本書および取り付ける装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



### 煙や異臭、異音がしたり、破損したまま使わない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに電源スイッチをOFFにして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。また、落したり、破損していたりした場合は、そのまま使用せず、販売店や保守サービス会社に連絡して点検を依頼してください。



## 警告

### 取り付ける装置の電源コードを接続したまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しを行う前に取り付ける装置の電源スイッチをOFFにして、装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチをOFFにしても、プラグを差し込んだままだと電気が装置内部に流れています。このまま取り付けると装置内部の部品に触れて、感電するおそれがあります。



### 針金や金属片を差し込まない

ディスク挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。



### 人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、交通管制設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。



### 本装置の内部をのぞかない

本装置はレーザーを使用しています。電源がONになっているときに内部をのぞいたり、鏡などを差し込んだりしないでください。万一、レーザー光が目に入ると失明するおそれがあります（レーザー光は目に見えません）。



## 注意

### 装置内に水や異物を入れない

装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ基本処理装置本体の電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。



### 指定以外のケーブルは使わない

当社が指定するケーブル以外のケーブルを使わないでください。指定以外のケーブルを使用したり誤接続した場合、ショートにより火災を起こすことがあります。



 **注意**

**損傷したケーブルを使わない**

ケーブルを接続する前に、ケーブルコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていないか確認してください。コネクタが破損したり、ピンの汚れたケーブルを使用した場合、ショートにより火災を起こすことがあります。



**ケーブル部分を持って引き抜かない**

ケーブルや電源ケーブルを抜くときは、コネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜いてください。ケーブル部分を持って引っ張ったり、コネクタ部分に無理な力を加えたりするとケーブルが破損し、火災や感電の原因となります。



**中途半端に差し込まない**

ケーブルや電源ケーブルは根本までしっかりと差し込んでください。中途半端な差し込みは、接触不良の発熱による火災の原因となることがあります。



また差し込み部にほこりがたまり、水滴などがつくと、発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

**本装置のそばで携帯電話やPHS、ポケットベルを使用しない**

本装置の近くでは携帯電話やPHS、ポケットベルを使用しないでください。電波による誤動作の原因となります。



**トレイを引き出したまま放置しない**

引き出したトレイの間からほこりが入り誤作動を起こすおそれがあります。



また、トレイにぶつかりけがをするおそれがあります。

**雷がなったら触らない**

雷が発生しそうときは本体装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。また電源プラグを抜く前に雷が鳴りだしたら、ケーブル類も含めて装置には触れないでください。火災や感電の原因となります。



**ペットを近づけない**

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。



## 警告ラベルについて

本装置内の危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが貼り付けられています。これは本装置を操作する際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです(ラベルをはがしたり、汚したりしないでください)。もしこのラベルが貼り付けられていない、はがれかかっている、汚れているなどして判読できないときは販売店にご連絡ください。本装置に貼り付けられているラベルには以下の警告文が表記されています。



# 使用上のご注意

本装置を正しく使用するために次の注意を守ってください。これらの注意を無視して、装置を使用した場合、本装置または資産(データやその他の装置)が破壊したり、本装置が誤動作したりすることがあります。

## デバイスドライバのインストールについて

本装置でDVD-RAMディスクをご使用になる場合、本装置に添付のデバイスドライバをインストールしてください。

デバイスドライバを正しくインストールしていないとDVD-RAMディスクを使用できません。

## 日常での使用について

- 本装置が動作している間は電源をOFFにしないでください。本装置の故障の原因となったり、書き込んだデータを失ったりすることがあります。
- ディスクの挿入/取り出しは、本装置がディスクの挿入/取り出しを行える状態になっていることを確認してから行ってください。無理やりディスクを挿入したり、取り出したりすると、本装置およびディスクが破損することがあります。
- ディスクはシステムの起動後に挿入してください。また、取り出しはシステムを終了する前に行ってください。ディスクを挿入したまま、システムを起動したり、終了したりするとデータが壊れるおそれがあります。
- ディスク以外のものを本装置に挿入しないでください。本装置の故障の原因となります。特にディスクをケースから取り出すときに、ディスクの取扱説明書やラベルなどがくっついていることがありますので注意してください。
- 本装置を移動する前にディスクを取り出し、ディスクトレイを閉じてください。ディスクを入れたまま本装置を移動するとディスクや本装置を損傷するおそれがあります。
- 本装置を縦向きに設置した場合は8cmCDを使用できません。8cmCDを使用する場合は、横向きに設置できるデバイスベイに取り付けてください。
- CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。

# お手入れについて

## レンズのお手入れについて

- 長時間使用すると、本装置のレンズにほこり等が付着して、正常に読み書きできなくなるおそれがあります。  
使用環境や使用回数によって異なりますが、添付のレンズクリーナーを用いて、1~4ヵ月に一度お手入れすることをお勧めします。クリーニングの詳細については3章を参照してください。

## 本体のお手入れについて

- 本装置の電源をOFFにしてください。
- よごれはやわらかい乾いた布で軽くふき取ってください。
- よごれがひどいときは、うすめた台所用洗剤(中性)に布をひたし、よくしぼってからふいてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの溶剤を使わないでください。

# 本装置・消耗品の廃棄について

- 本装置の廃棄または使用できなくなったディスクの廃棄については各自治体の廃棄方法に従ってください。
- DVD-RAMメディアに保存されているデータは、第三者によって復元や再生、再利用されないようお客様の責任において確実に処分してから廃棄してください。個人のプライバシーや企業の機密情報を保護するために十分な配慮が必要です。



# 第1章 初めてお使いになるとき

～箱を開けてからお使いになれるまで～

本装置を初めてお使いになる場合は、この章からお読みください。

ここでは、本装置の特長や梱包箱を開けてから本装置を使用できるようになるまでの作業を順を追って説明します。

本装置および使用するソフトウェアについて不明な点がありましたら、お買い上げの販売店へご相談ください。

## 本装置の特長

本装置は、サーバ機器などのファイルシステム用に開発された内蔵型記憶装置で、ローエンドからハイエンドまでのコンピュータシステムで使用するために設計された、大容量の高性能DVD-RAM装置です。

## 多様なメディアを書き込み・読み取り可能

<書き込み・読み取り>

DVD-RAM

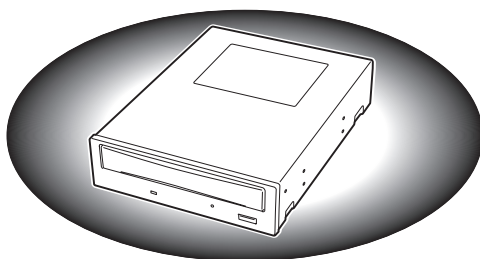
<読み取り>

DVD-ROM

CD-ROM

CD-R

CD-RW



## 大容量

片面で4.7GB/両面で  
9.4GB (DVD-RAM)

## 多機能

ダイレクトオーバーライト  
2MBのデータバッファ  
データの読み取り・書き込み

## 標準規格をサポート

業界標準のATAインタフェースをサポート  
DVD-RAMフォーラムの統一規格 (Ver.2.0) に準拠

## 高品質

信頼性の高いリード・ライトヘッドを採用  
高音質で再生  
高耐塵埃構造

## 高速データ転送

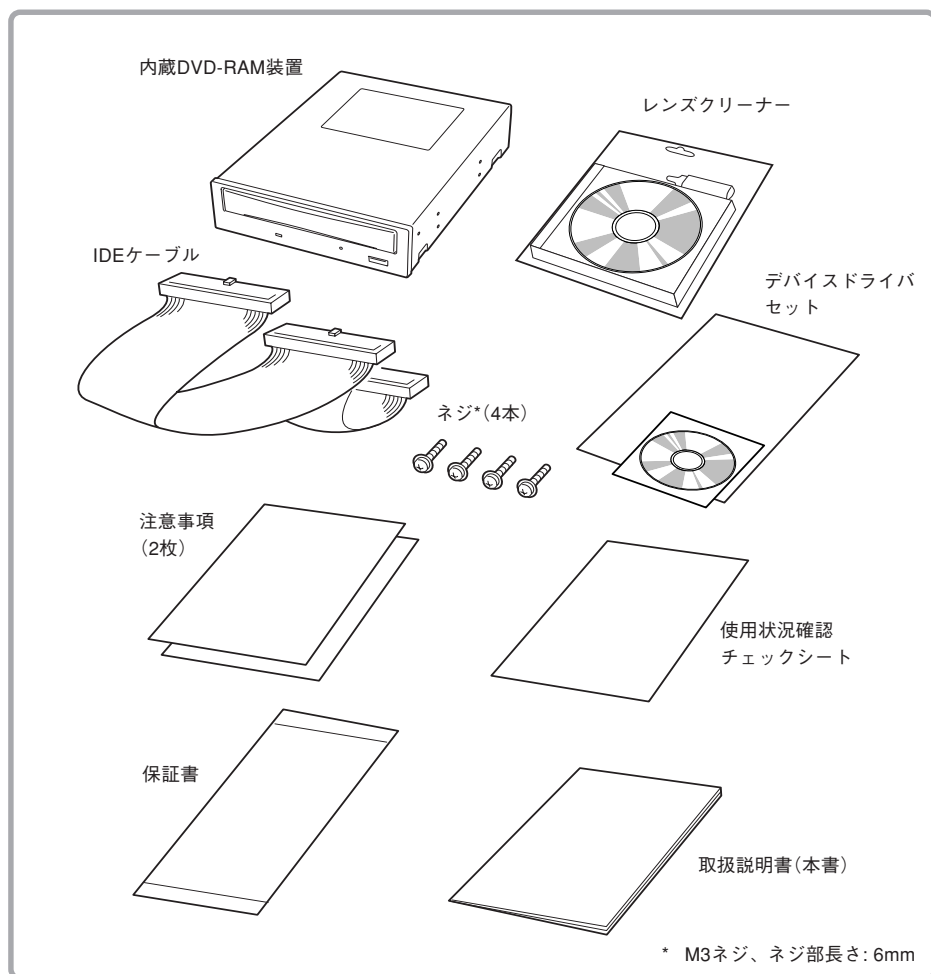
最大2.6MB/秒 (DVD-RAM Ver.2.0)

## 最新の転送モードをサポート

Ultra DMAモード2/モード4に対応  
マルチワードDMAモード2、PIO転送モード  
にも対応

## 箱の中身

梱包箱を開けて次のものがすべてそろっていることを確認し、それぞれの点検を行ってください。万一足りないものや損傷しているものがある場合には、販売店に連絡してください。



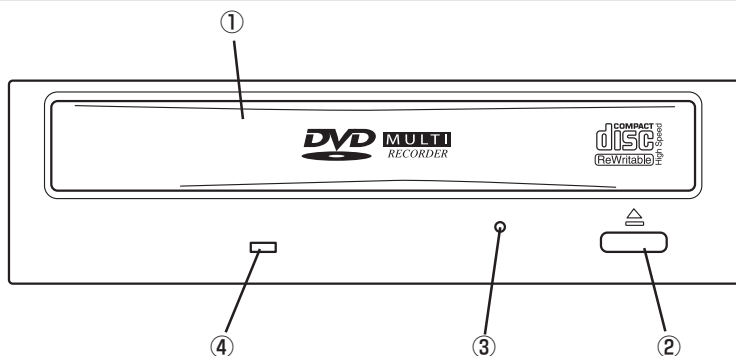
NOTE

- 本装置を譲渡する場合には、本書を併せて譲渡してください。
- 箱と緩衝材は装置の移動時や保管時に使用しますので大切に保管しておいてください。
- 本装置には、データ用ディスクは含まれていません。販売店で別途購入してください。
- 『保証書』は、販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合は、『保証書』の記載内容に基づき無料修理いたします。

## 各部の名称と機能

本装置の設置や取り扱いの際に使用する部品の名前とその位置を示します。

### <装置前面>



#### ① ディスクトレイ

メディア(ディスク)を置く場所。

電源が入っている状態でオープン/クローズボタンを押すか、またはトレイを押し込むと動作する(電源が入っていないときは、動作しません)。

#### ② オープン/クローズボタン

ディスクをセットするときや取り出すときに押すボタン(電源がOFFのときおよびプログラムで禁止されているときは動作しません)。

#### ③ マニュアルエマージェンシーイジェクトホール

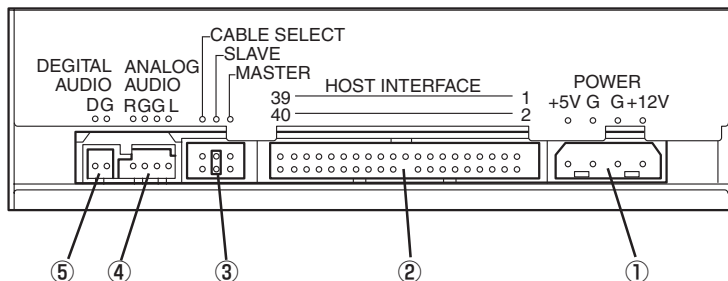
ピン(まっすぐに伸ばしたクリップなど)を押し込むと、手動でディスクトレイをイジェクトできる(オープン/クローズボタンやソフトウェアからイジェクトできないときに使ってください)。

#### ④ ビジーインジケータ

電源が入っていると、インジケータは次のように点灯する。

挿入メディア	動作状態	表示
DVD-RAMディスク	書き込み中	グリーン点灯
	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
CD-ROMなどのディスク	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
CD/DAなどのディスク	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
ディスク未挿入	—	消灯
ディスク挿入/排出時	—	グリーン点灯

## <装置背面>



### ① 電源コネクタ

電源ケーブルを接続するコネクタ。

### ② IDEインタフェースコネクタ

IDEバスに接続するコネクタ。添付のケーブルを使って接続する。

### ③ デバイス設定ピン

装置の内部設定をするピン。

### ④ オーディオコネクタ

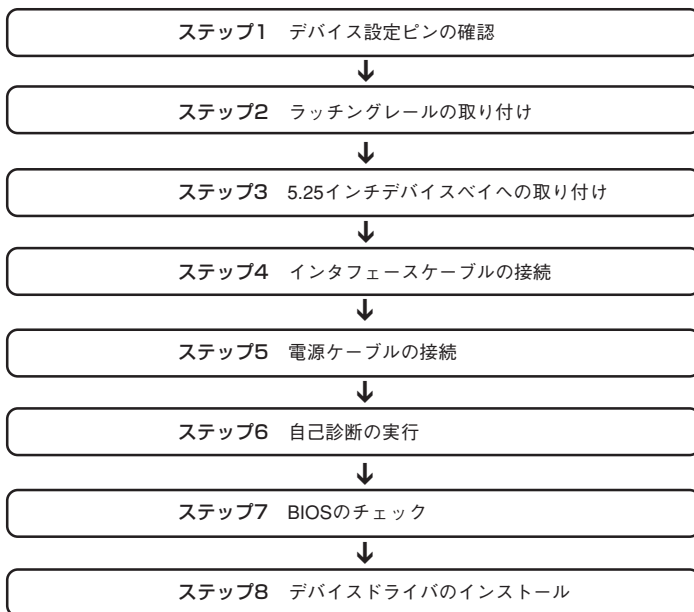
オーディオケーブルを接続するコネクタ。

### ⑤ 未使用コネクタ

何も接続しないでください。

## 取り付け

本装置は、基本処理装置の5.25インチデバイスベイに取り付けることができます。セットアップの順序は次のとおりです。

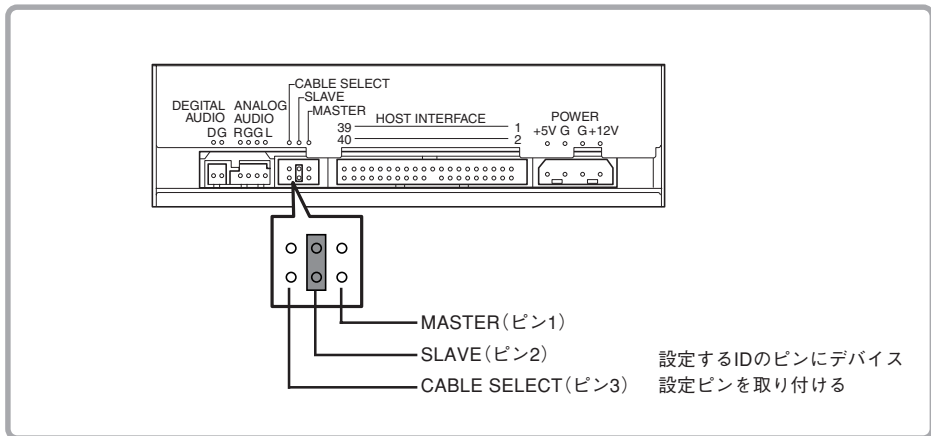


## デバイス設定ピン

本装置を5.25インチデバイスベイに取り付ける前に、本装置の設定を確認します。  
本装置を含むIDEデバイスは、IDの設定が必要です。同じIDEバス上に接続されるデバイスは、それぞれ異なるIDを設定しておかないと正しく動作しません。

IDには、「MASTER」、「SLAVE」、「CABLE SELECT」の3つがありますが、本装置は標準装備のCD-ROM/RWドライブ(MASTER)と同一バス上に接続するため、「SLAVE」で使用してください。

IDは、本装置背面にあるデバイス設定ピンのピン1～3を使って設定できます(本装置は工場出荷時SLAVEに設定されています)。

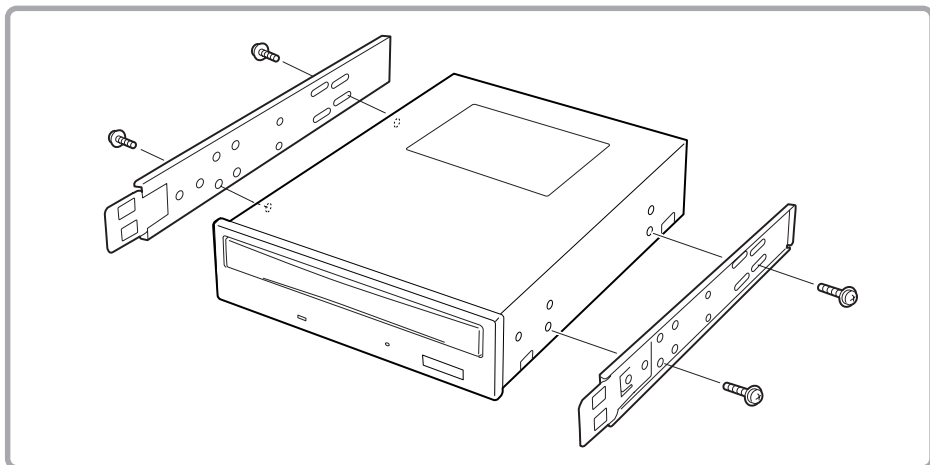


## ラッチングレールの取り付け

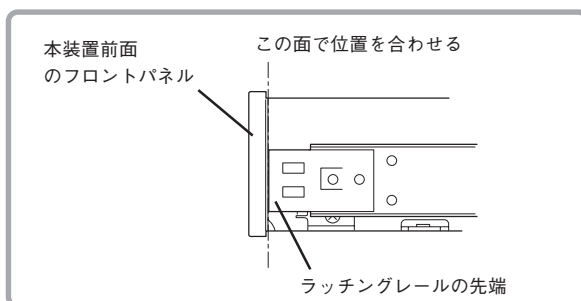
必要に応じてラッチングレールを取り付けて、5.25インチデバイスベイに取り付ける準備をします。

ラッチングレールは、基本処理装置の5.25インチデバイスベイにあったものを取り付けます。基本処理装置によってはラッチングレールを使用せず、直接基本処理装置の5.25インチデバイスベイのフレームに本装置を固定する場合があります。この場合はラッチングレールを取り付ける必要はありません。

本装置をじょうぶで平らな場所に置いて、ラッチングレールを本装置に添付のネジを使って本装置の左右に取り付けます。



- 取り付けレールの先端が下図の位置になるように固定してください。



- ネジは本装置に添付のネジ(4本)を使用してください。添付のネジはM3ネジ、ネジ部長さが6mmです。

## 5.25インチデバイスベイへの取り付け

基本処理装置に取り付けます。



### 分解・修理・改造はしない

修理技術者以外の人は、本書および取り付ける装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



### 取り付ける装置の電源コードを接続したまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しを行う前に取り付ける装置の電源スイッチをOFFにして、装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチをOFFにしても、プラグを差し込んだままだと電気が装置内部に流れています。このまま取り付けると装置内部の部品に触れて、感電するおそれがあります。

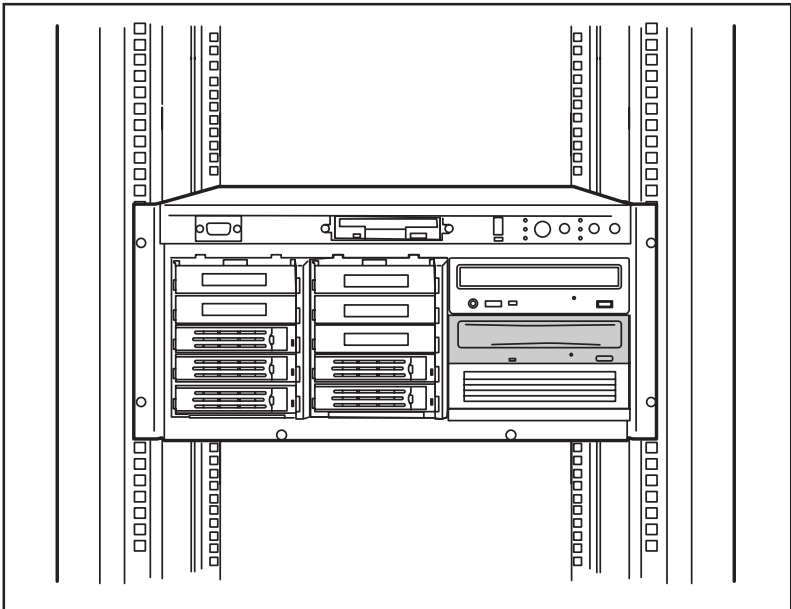
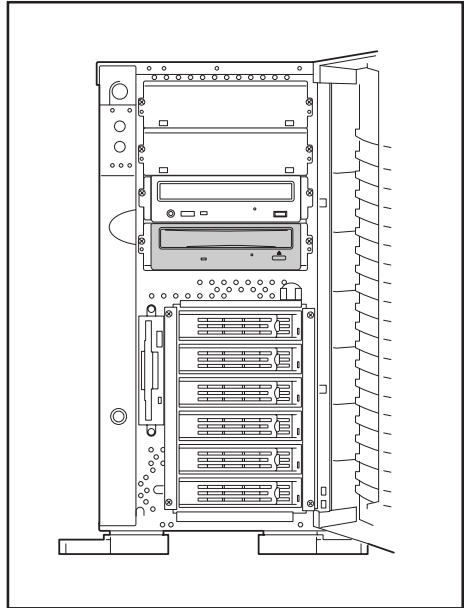
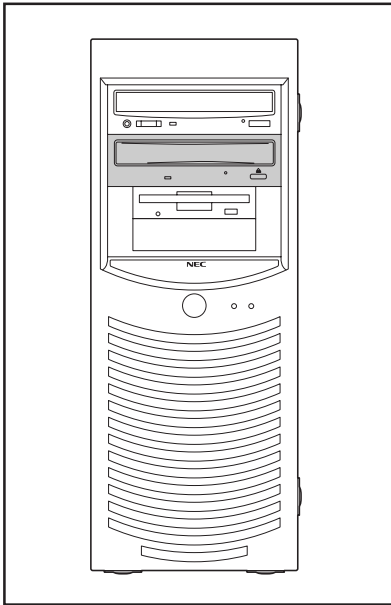


- 本装置は標準実装のCD-ROM/RWドライブと同一バス上に接続してください。本装置に添付のIDEインタフェースケーブルはMASTER/SLAVE間の線長が短いため、CD-ROM/RWドライブと隣接したデバイスベイに取り付けてください。
- 基本処理装置によっては、本装置を縦向きにして取り付けることができる場合もありますが、縦向きに取り付けた場合は8cmCDを使用できません。8cmのCDを使用するときは横向きに取り付けてください。



本装置は標準装備のCD-ROM/RWドライブと隣接してデバイスベイに取り付けてください。また、マザーボード上のコネクタ、本装置、CD-ROM/RWの順でインタフェースケーブルを接続するよう、すでに取り付けられている装置の搭載スロットを変更する必要がある場合があります(次ページの図を参照)。

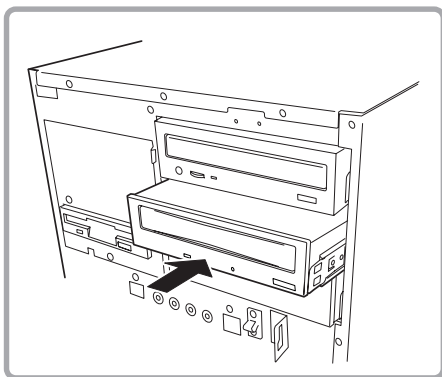




## 本装置にラッチングレールを取り付けた場合

1. 基本処理装置の電源スイッチをOFFにして、電源プラグをコンセントから抜く。
2. 基本処理装置のカバー類を取り外す(詳しくは基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください)。
3. 本装置を5.25インチデバイスベイに取り付ける。

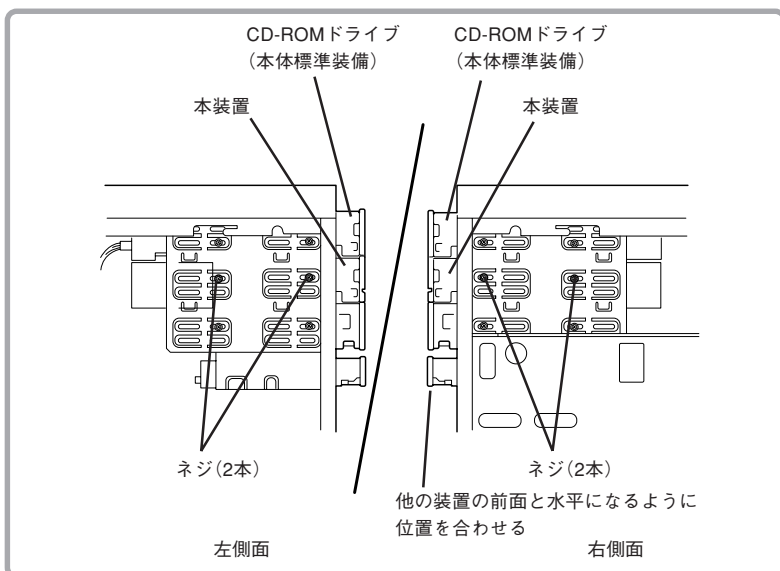
「カチッ」と音がしてロックされるまでゆっくりとていねいに挿入してください。



## 本装置にラッチングレールを取り付けず、直接5.25インチデバイスベイに固定する場合

1. 基本処理装置の電源スイッチをOFFにして、電源プラグをコンセントから抜く。
2. 基本処理装置のカバー類を取り外す(詳しくは基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください)。
3. 本装置を5.25インチデバイスベイに差し込む。
4. 添付のネジ4本(M3ネジ、ネジ部長さが6mm)で本装置を5.25インチデバイスベイに固定する。

左右の側面から各2本のネジで本装置を固定します。



## インタフェースケーブルの接続

基本処理装置内部または本装置に添付のIDEインタフェースケーブルを使用してマザーボードと本装置、CD-ROM/RWを接続します。



### 損傷したケーブルを使わない

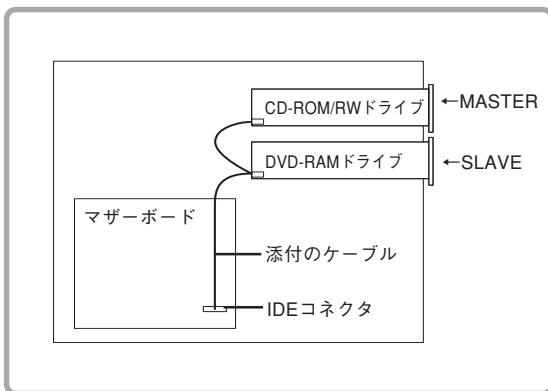
ケーブルを接続する前に、ケーブルコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていないか確認してください。コネクタが破損したり、ピンの汚れたケーブルを使用した場合、ショートにより火災を起こすことがあります。



基本処理装置内部のIDEインタフェースケーブルが二股の場合にはそちらを使って接続してください。なお、接続する順序に注意してください。

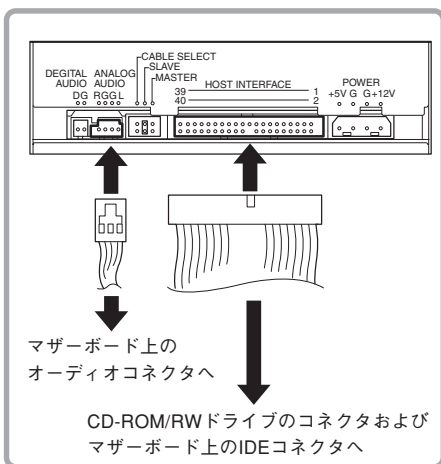
基本処理装置内部または本装置に添付のIDEインタフェースケーブルを本装置および標準で搭載されているCD-ROM/RWドライブに接続し、マザーボード上のIDEコネクタに接続します。また、不要となったケーブルは大切に保管しておいてください。

インタフェースケーブルはマザーボード上のコネクタ、本装置、CD-ROM/RWドライブの順に接続してください。



本装置添付のIDEインタフェースケーブルは、MASTER/SLAVE間の線長が短いため、標準装備のCD-ROM/RWドライブと隣接して実装する必要があります。

基本処理装置にオーディオケーブルがある場合は、本装置の背面にあるオーディオコネクタに接続してください。



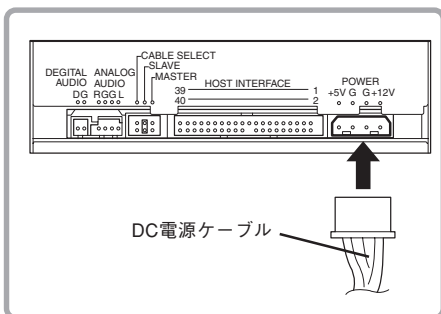
## 電源ケーブルの接続

基本処理装置の電源ユニットから出ているDC電源ケーブルの中から未使用のケーブルを本装置の背面にある電源コネクタに差し込みます。



NOTE

本装置に接続できるDC電源ケーブルについては、基本処理装置のマニュアルを参照してください。



## 自己診断の実行

基本処理装置の電源をONにすると、本装置は自己診断を自動的に実行します。

自己診断の結果は本装置前面のビジーインジケータで表します。実行結果を確認してください。

自己診断の結果、問題がなければビジーインジケータが消灯します。

インジケータが消灯しなかったり、「故障かな?」と思ったりしたときは、第4章を参照して障害の原因を確認してください。

## BIOSのチェック

基本処理装置のBIOSユーティリティで本装置および接続を変えたCD-ROM/RWドライブが正しく取り付けられていることを確認します(使用している基本処理装置によっては、BIOSユーティリティでの表示ができない場合があります。その場合は、OS上から確認してください)。

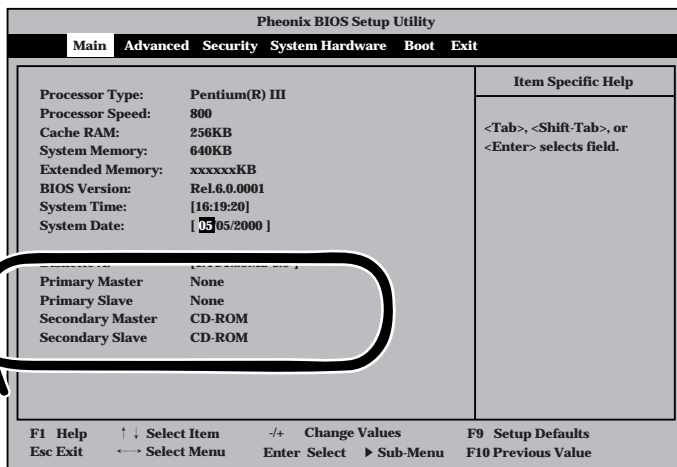
BIOSユーティリティの起動方法、ならびに操作方法については、基本処理装置に添付の説明書を参照してください。

BIOSユーティリティを起動すると次のような画面が表示されます。画面の[Main]メニューの中などに基本処理装置に接続したデバイスのタイプなどが表示されています。

表示の中に本装置(本装置を接続したIDEバスおよび本装置に割り当てたIDの欄に「CD-ROM」と表示されます)およびCD-ROM/RWドライブがない場合は、次のことが考えられます。

- インタフェースケーブルおよび電源ケーブルが正しく接続されていない。  
→ ケーブルを正しく接続してください。
- デバイスのID設定が正しくない。  
→ IDは、重複しないよう設定してください。

<表示例>



## デバイスドライバのインストール

基本処理装置にインストールされているオペレーティングシステムによっては、デバイスドライバのインストールが必要な場合があります。

本装置に添付の「内蔵DVD-RAM装置ソフトウェアユーザーズガイド」と「デバイスドライバディスク」を使って基本処理装置にドライバをインストールしてください。

インストールに必要な条件やインストール方法については、添付の「内蔵DVD-RAM装置ソフトウェアユーザーズガイド」を参照してください。

## 第2章 日常の使用方法

ここでは、本装置を日常お使いになるときの取り扱い方法について説明します。ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については付録Bをご覧ください。

### 電源のON/OFF

本装置への電源は、基本処理装置内蔵の電源ユニットから供給されています。基本処理装置の電源をONにすれば、自動的に本装置の電源もONになります。また、基本処理装置の電源をOFFにすれば、本装置の電源もOFFになります。

電源のON/OFFの状態については、基本処理装置のPOWERランプで確認してください。



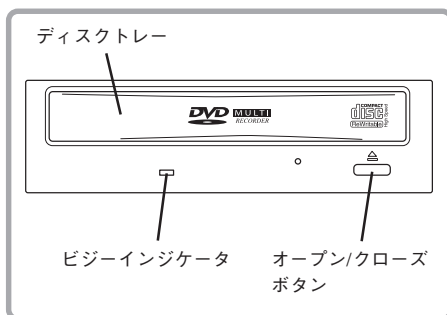
NOTE

- 基本処理装置の電源のON/OFFを必要以上に繰り返さないでください。本装置および基本処理装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本装置前面にあるイジェクトスイッチを押したまま、基本処理装置の電源をONにしないでください。本装置の内部設定が変更され、本装置および基本処理装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本装置前面にあるビジーランプが点灯している間は電源をOFFにしないでください。ディスク上のデータの一部またはすべてが失われることがあります。

### オープン/クローズボタンとビジーインジケータ

本装置前面のフロントパネルには、ディスクトレイの開閉を行うためのオープン/クローズボタンと動作状態を表示するビジーインジケータがあります。

オープン/クローズボタンは本装置にセットしたディスクをイジェクト（排出）するときに押します。ただし、ソフトウェアによってイジェクトを禁止されているときは、このスイッチを押してもディスクはイジェクトされません。



NOTE

- お使いになる環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、ディスクを正しくイジェクトさせるために決められた手順を行う必要がある場合があります。また、オープン/クローズボタンを押さなくてもコンピュータの画面上からイジェクトすることができる場合もあります。
- ビジーインジケータが点灯している間はオープン/クローズボタンを押さないでください。ビジーインジケータが点灯している間は、オープン/クローズボタンを押しても、ビジーインジケータが消灯するまでイジェクトされません。

ピジーインジケータは、セットしたディスク内のデータのシーク中やフォーマット中、データのリード中／ライト中に緑色に点灯します。

挿入メディア	動作状態	表示
DVD-RAMディスク	書き込み中	グリーン点灯
	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
CD-ROMなどのディスク	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
CD/DAなどのディスク	読み取り中	グリーン点灯
	待機中	消灯
ディスク未挿入	—	消灯
ディスク挿入/排出時	—	グリーン点灯

## ディスクのセット

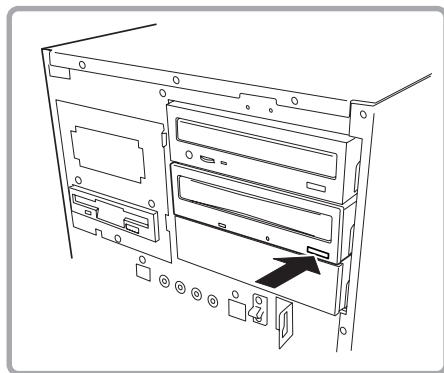
次の手順に従ってディスクを本装置にセットします。ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については付録Bをご覧ください。



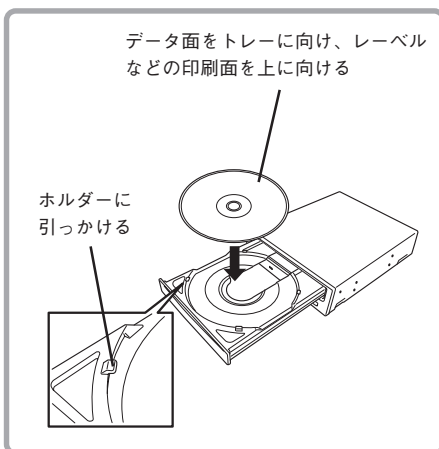
- ディスクはていねいに取り扱いってください。乱暴に取り扱うと、ディスクが破損してデータの一部またはすべてを失うことがあります。
- うまく本装置にセットできないときは、無理な力を加えてセットしようとせずに、いったん本装置からディスクを取り出して、セットする方向や向きを確認してください。
- 本装置で使用できないディスクをセットしないでください。本装置の故障の原因となります。
- 基本処理装置によっては、本装置を縦向きにして取り付けることができる場合がありますが、縦向きに取り付けた場合は8cmCDを使用できません。

1. 基本処理装置の電源がONになっていることを確認する。
2. オープン/クローズボタンを押す。

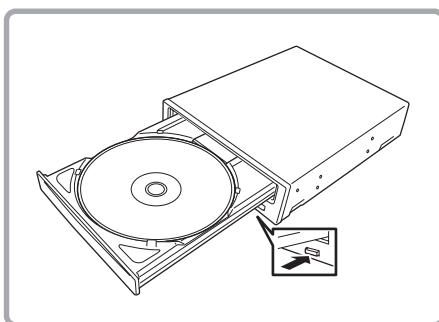
ディスクトレイが出てきます。



3. ディスクをディスクトレイにのせる。



4. オープン/クローズボタンを押してディスクトレイを閉じる。





## ディスクのイジェクト

次の手順に従ってディスクを本装置から取り出します。ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については付録Bをご覧ください。



- ディスクはていねいに取り扱ってください。乱暴に取り扱うと、ディスクが破損してデータの一部またはすべてを失うことがあります。
- お使いになる環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、ディスクを正しくイジェクトさせるために決められた手順を行う必要がある場合があります。また、オープン/クローズボタンを押さなくてもコンピュータの画面上からイジェクトすることができる場合もあります。
- ディスクは基本処理装置の電源をOFFにする前に必ず取り出してください。ディスクをセットしたまま基本処理装置の電源をOFFにするとディスクまたは本装置が損傷するおそれがあります。
- ビジーインジケータが点灯している間はオープン/クローズボタンを押さないでください。ビジーインジケータが点灯している間は、オープン/クローズボタンを押しても、ビジーインジケータが消灯するまでイジェクトされません。

1. 基本処理装置の電源がONになっていることを確認する。

2. ビジーインジケータが消灯していることを確認する。

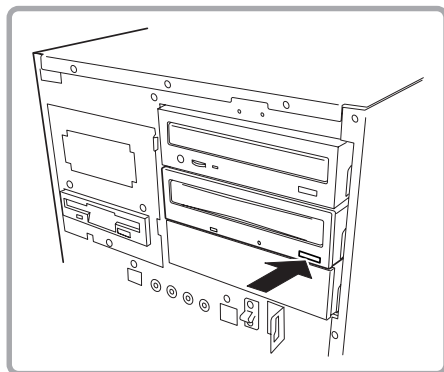
3. オープン/クローズボタンを押す。

ディスクトレイが出てきます。

4. ディスクの端を持って、ゆっくりとていねいに本装置からまっすぐに取り出す。

ディスクは専用のケースに入れて、大切に保管してください。

5. オープン/クローズボタンを押し、ディスクトレイを閉じる。



## ディスクの手動イジェクト

通常の方法でディスクをイジェクトできなくなった場合のために手動でイジェクトすることができます。

お使いになる環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、イジェクトスイッチを押してイジェクトさせる方法ができない場合があります。手動でイジェクトする前にお使いになっているオペレーティングシステムやコンピュータ、デバイスドライバなどのマニュアルを参照することをお勧めします。



### 分解・修理・改造はしない

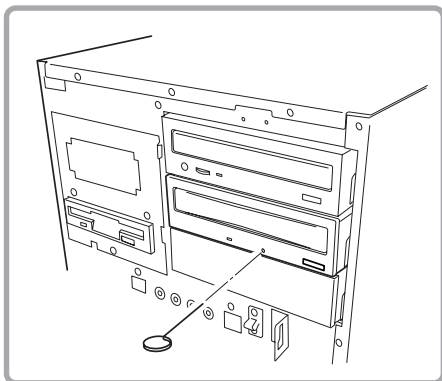
修理技術者以外の人は、本書および取り付ける装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



- ディスクが通常の方法でイジェクトできなくなったときのみ、ここで示す方法を行ってください。正常にイジェクトできるときに手動でイジェクトすると故障の原因となります。
- 基本処理装置の電源がOFFの状態を手動イジェクトを行ってください。基本処理装置の電源がONの状態を手動イジェクトを行うと、ディスク内のデータの消失や本装置、および基本処理装置の故障の原因となります。
- 折れやすいものはエマージェンシーイジェクトホールに押し込まないでください。
- ディスクの排出ができなかった原因が分からない場合は保守サービス会社にご連絡ください。そのままご使用になると、ディスクが挿入できなかったり、再び取り出せなかったり、本装置の故障の原因となります。

1. 基本処理装置の電源をOFFにして、しばらく待つ(約30秒)。
2. 本装置前面にあるマニュアルエマージェンシーイジェクトホールに長さ40mm以上、太さ、1mm~1.8mmのピン(まっすぐに伸ばしたクリップなど)を差し込み、水平にゆっくりと強く押す。

ディスクトレイが押し出されます。



3. トレーの先端を持ってゆっくりと引き出す。

4. ディスクを取り出す。

ディスクトレイを閉じるときは、ディスクの排出ができなかった原因を確認した後、異常がなければ電源をONにして、オープン/クローズボタンを使って閉じてください。その後も続いてイジェクトできない場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。

## データの書き込み・読み取り

DVD-RAMディスクへの書き込みや本装置で使用できるディスクの読み取り方法は、使用しているオペレーティングシステムおよびアプリケーションの説明書を参照してください。

## 取り扱い上の注意 ～大切なデータを守るために～

DVD-RAMディスクも他の記録媒体と同じようにデータの安全性が100%保証されているものではありません。DVD-RAMディスクに保存した大切なデータをメディアの欠陥やハードウェア的な誤動作などによる消失や破壊などの問題を回避するためにも次のような方法でデータを取り扱うことをお勧めします。

---

### データのバックアップ

ここでは、万一の場合に備えてのデータのバックアップ方法について説明します。

#### 正副2枚のDVD-RAMディスクにバックアップ

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、正副2枚にバックアップすることをお勧めします。

こうしておけば、一方のDVD-RAMディスクがゴミまたは塵埃などによってリードエラーを起こしても、もう一方のDVD-RAMディスクから復旧でき、大切なデータやプログラムの消失を防げます。

#### データの3世代管理について

ディスク上のデータをバックアップする場合、バックアップされたデータの3世代管理をお勧めします。

これはDVD-RAMディスクを3枚(A、B、C)使用して、1日目はディスクAにデータをバックアップしたならば、2日目にはディスクBにバックアップし、3日目にはディスクCにバックアップし、A→B→Cと順番にデータをバックアップしていくものです。

こうしておけば、ディスクCがリードエラーを起こしたとしてもディスクBのデータを使用すればデータは復旧できます。また、ディスクBがリードエラーを起こしたとしてもディスクAのデータを使用することで大切なデータは復旧できます。

---

## ディスクのライトプロテクト

重要なファイルが保存されているDVD-RAMディスクをセットしているときは、ライトプロテクトをしてください。災害や停電による突然の電源OFFなど万一のときにもディスクの中のファイルは保護されます。また、誤操作によるデータの消失を防ぐことができます。

ライトプロテクト方法については、添付の内蔵DVD-RAM装置ソフトウェアユーザーズガイドを参照ください。

---

## 日常の保守(クリーニング)

### レンズのお手入れについて

長時間使用すると、本装置のレンズにはほこり等が付着して、正常に読み書きできなくなるおそれがあります。

使用環境や使用回数によって異なりますが、添付のレンズクリーナーを用いて、1~4ヶ月に一度お手入れすることをおすすめします。クリーニングの詳細についてはこの次の章を参照してください。

### ディスクのお手入れについて

ディスクを長時間使用していると、保管状態によりデータ面にほこりや汚れが付着してデータを正しくリード/ライトヘッドできなくなることがあります。クリーニングの詳細についてはこの次の章を参照してください。

## 第3章 クリーニング・装置の輸送

本装置およびディスクを安全に、かつ正常に使用するため、定期的に本装置のクリーニングを行ってください。また、本装置を輸送するときは必ずここで示す手順に従ってください。(ディスクの取り扱いについては付録Bでも説明しています。ご覧ください。)

### 本装置のクリーニング



#### 分解・修理・改造はしない

修理技術者以外の人は、本書および取り付ける装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



### 装置のクリーニング

ディスクの挿入口などにほこりが溜まらないよう、定期的に装置のまわりをクリーニングしてください。



- 本装置の電源を切る。
- よごれはやわらかい乾いた布で軽くふき取る。
- よごれがひどいときは、うすめた台所用洗剤(中性)に布をひたし、よくしぼってからふく。
- 化学ぞうきんを使用する際は、その注意書に従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの溶剤を使わない。

### レンズのクリーニング

本装置のリード/ライトヘッドを清掃する場合は、添付のレンズクリーナーをご使用ください。

#### (特長)

レンズクリーナー液を使用した湿式タイプなので、効果的にレンズの汚れを取り除くことができます。

## (使い方)

1. 本装置の電源をONにする。
2. レンズクリーナーの白色の5つの布片部分に、付属のクリーニング溶液器のブラシを使い、クリーニング液を1回染み込ませる。

多量に染み込ませますと、ドライブ内で飛び散り、故障の原因になります

3. レンズクリーナーのラベル印刷面に表示されている矢印(↑)を、ドライブの奥側に向けて、CDと同様にトレーへセットし、トレーを閉じる。

レンズクリーナーの識別には、動作表示ランプが約15~30秒点灯します。

4. 動作ランプの点灯が消えたら、オープン/クローズボタンを押して、トレーからレンズクリーナーを取り出す。

機種によっては、自動的にトレーが開きますが、異常ではありません。

取り出したレンズクリーナーは、ブラシ面を下にして専用の保管ケースに収納してください。

## (お知らせ)

- クリーニングの頻度は、使用環境や使用回数によって異なりますが、1~4ヵ月に一度を目安としてください。
- レンズクリーニングしてもデータの読み書きに問題が生じる場合は、上記「使い方」の手順でクリーニング液を使わず繰り返してください。5、6回繰り返しても解消されない場合は、他の原因が考えられます。お買い上げの販売店にご相談ください。

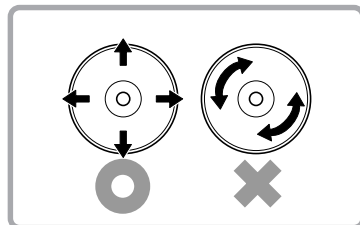
## (お願い)

- 添付のレンズクリーナーは、本装置専用です。他の機器には使用しないでください。故障の原因になります。
- ブラシが消耗した場合やブラシの汚れがひどくなった場合は、新品をお買い求めください。
- 保管する際は、付属の専用プラスチックケースに収納し、直射日光の当たる場所や高温になる場所に置かないでください。
- 付属の液以外をクリーニング液に使用しないでください。

## ディスクのクリーニング

長期間、同じディスクを使用すると、ディスクのデータ面にゴミやチリ、汚れが付着してデータのリード/ライトが正しくできなくなることがあります。

付着したほこり、汚れ等を除去する際には柔らかい乾いた布が市販のクリーナーを使用しディスクに傷がつかないように軽くふき取ってください。なお、溶剤類は絶対に使用しないでください。



**NOTE** ディスク清掃をする場合、ディスクに傷がつかないように注意してください。ディスクに傷がつくと大切なデータを読み取れなくなったり破壊されたりします。

## 装置の移動・輸送について

本装置を輸送するときは、必ず次の手順に従ってください。



**警告**

### 分解・修理・改造はしない

修理技術者以外の人は、本書および取り付ける装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



### 取り付ける装置の電源コードを接続したまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しを行う前に取り付ける装置の電源スイッチをOFFにして、装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチをOFFにしても、プラグを差し込んだままだと電気が装置内部に流れています。このまま取り付けると装置内部の部品に触れて、感電するおそれがあります。



1. 本装置からディスクを取り出し、ディスクを添付のプラスチック保護ケースに収納し、保管する。

ディスクに過度の力が加わらないよう注意してください。

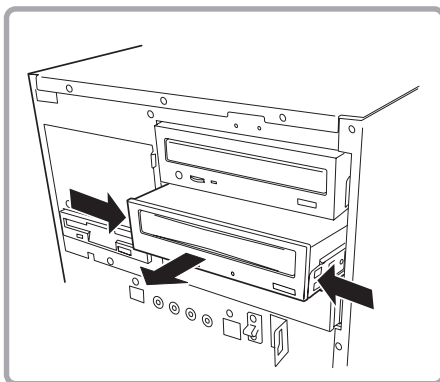
2. 基本処理装置のPOWERスイッチをOFFにして、システムを終了した後、電源プラグをコンセントから抜く。
3. 基本処理装置のカバー類を取り外す。
4. 本装置に接続しているDC電源ケーブルおよびインタフェースケーブルを取り外す。

5. 本装置を基本処理装置から取り外す。

ラッチングレールを取り付けている場合は、右図の手順で装置から取り出します。

6. ラッチングレールを本装置に取り付けている場合は、ラッチングレールを取り外す。

7. 本装置が入っていた箱に本装置を入れて、添付の緩衝材で本装置を固定する。





## 第4章 「故障かな?」と思ったときは

本装置が思うように動かなくなり、「故障かな?」と思ったときはこの章で示す障害処理チャートを参照して障害の原因を確認してください。



### 分解・修理・改造はしない

修理技術者以外の人は、本書および基本処理装置に添付の説明書に記載されていない分解・修理・改造を絶対に行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。



障害処理チャート(1/3)

内容	原因	対処方法
動作しない	基本処理装置の電源がOFFになっている	基本処理装置の電源をON (POWERランプ点灯) にしてください。
	DC電源ケーブルが接続されていない	本装置に基本処理装置の電源ユニットから出ている電源ケーブルを接続してください。
	インタフェースケーブルが接続されていない	本装置、およびCD-ROMドライブをマザーボード上のIDEコネクタに接続してください。接続に使用するケーブルは本装置に添付されているインタフェースケーブルを使用してください。
	デバイス設定ピンの設定を間違えている	本装置にあるデバイス設定ピンを正しく設定してください。IDを設定するスイッチ以外は出荷時の設定にしてください。
ディスクをセットできない	ディスクがトレイの中に正しく入っていない	ディスクを正しく入れてください。
	ディスクの挿入方向を間違っている	ディスクを正しい向きにして差し込んでください。
	すでに別のディスクがセットされている	セットしているディスクをイジェクトしてからセットしてください。

障害処理チャート(2/3)

内容	原因	対処方法
基本処理装置からディスク(本装置)を認識できない	インタフェースケーブルが接続されていない	本装置、およびCD-ROMドライブをマザーボード上のIDEコネクタに接続してください。接続に使用するケーブルは本装置に添付されているインタフェースケーブルを使用してください。
	インタフェースケーブルが破損している	インタフェースケーブルを交換してください。インタフェースケーブルは、本装置に添付されているインタフェースケーブルを使用してください。
	デバイス設定ピンの設定を間違えている	本装置にあるデバイス設定ピンを正しく設定してください。IDを設定するスイッチ以外は出荷時の設定にしてください。
	インストールしているソフトウェア(ドライバ)を間違えている	正しいデバイスドライバをインストールしてください。また、オペレーティングシステムと基本処理装置によっては、デバイスドライバのロード順に制限がある場合があります。それぞれのマニュアルを参照してください。
オープン/クローズボタンを押してもディスクトレイがイジェクトされない	ビジーインジケータが点灯している	ビジーインジケータが消灯してからオープン/クローズボタンを押してください。
	使用している環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバなど)によってオープン/クローズボタンの機能が制限されている	使用している環境によっては、オープン/クローズボタンを押してもイジェクトできない場合があります。それぞれのマニュアルを参照して手順に従った方法でディスクをイジェクトしてください。(基本処理装置本体のトラブルによりイジェクトできない場合も考えられます。この場合には、いったん基本処理装置の電源をOFFにして、手動イジェクトでディスクをイジェクトしてください。)
データのリード(読み取り)ができない	他のコンピュータやオペレーティングシステムで使用していたディスクをセットしている	別の装置で書き込んだディスクや使用している環境に合わないフォーマット形式のディスクのデータは読みとることができません。本装置、および基本処理装置の仕様や環境にあったディスクを使用してください。
	急激な温度変化を与えた	急激な温度変化のためにディスクや本装置、基本処理装置が結露していることが考えられます。急激な温度変化が合った場合は、1時間以上待ってから使用してください。
	ディスクが汚れている	ディスクをクリーニングしてください。

### 障害処理チャート(3/3)

内 容	原 因	対 処 方 法
データのライト(書き込み)ができない	ディスクがライトプロテクトされている	ディスクのライトプロテクトを解除してください。
	ディスクがフォーマットされていない。または、本装置や基本処理装置の環境に合った形式でフォーマットされていない形式でフォーマットされている	ディスクを本装置や基本処理装置の環境に合った形式でフォーマットしてください。(記録しているデータが必要な場合は、別のディスクを使用してください。)
	使用している環境温度が低すぎる	使用環境温度が5℃以下の場合、リードできてライトできないことがあります。使用環境温度を5℃以上にしてから使用してください。
	急激な温度変化を与えた	急激な温度変化のためにディスクや本装置、基本処理装置が結露していることが考えられます。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってから使用してください。
	ディスク、または本装置のリード/ライトヘッドが汚れている	リード/ライトヘッドおよびディスクをクリーニングしてください。それでも書き込みができない場合は、買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
フォーマットに異常に時間がかかる	物理フォーマットをしている	物理フォーマットは論理フォーマットに比べ時間がかかります。しばらくお待ちください。
	ディスクが汚れている	ディスクをクリーニングしてください。

# 付録A 仕様

データ転送速度	UltraDMAモード4	66.6MB/s
	UltraDMAモード2	33.3MB/s
	マルチワードDMAモード2	16.6MB/s
	PIO転送モード4	16.6MB/s

平均アクセス時間	Random(平均回転待ち時間含む)	
	DVD-RAM	240ms
	DVD-ROM	140ms
	CD-ROM	130ms

バッファ容量 2MB

外形寸法 146mm(幅)×190mm(奥行き)×41.3mm(高さ)

質量 約0.96kg

電源(定格)	DC +5V	1.0A
	DC +12V	0.7A

消費電力(定格) 13.4W

## 環境条件

[動作時]	周囲温度	5°C～45°C(温度変化率: 10°C/時間)
	相対湿度	10%～80%RH
	最大湿球温度	29°C(結露しないこと)

[輸送時]	周囲温度	－30°C～60°C
	相対湿度	5%～90%RH
	最大湿球温度	29°C(結露しないこと)

[振動]	動作時	1.96m/s <sup>2</sup> 以下
	輸送時	9.8m/s <sup>2</sup> 以下

## 付録B DVD-RAMディスクについて

本装置で使用できるディスクは、以下のとおりです。  
以下のメディアに書き込み/読み取りができます。

- DVD-RAM (4.7GB/片面)
- DVD-RAM (9.4GB/両面)

以下のメディアの読み取りができます。

- DVD-RAM (5.2GB/両面)
- DVD-RAM (2.6GB/片面)
- DVD-ROM
- CD-ROM
- CD-R/RW



本装置で使用するDVD-RAMディスクは、NECが提供するDVD-RAMディスクまたは推奨品を使用することをお勧めします。詳しくは付録C、付録Dをご覧ください。

### DVD-RAMディスクの取り扱い上の注意

書き込み済みまたは書き込まれていないDVD-RAMディスクを長持ちさせるために、次の点に注意してDVD-RAMディスクを取り扱ってください。

- DVD-RAMディスクを落としたり、たたいたりしないでください。DVD-RAMディスクが破損するおそれがあります。また、破損したDVD-RAMディスクを本装置にセットすると、本装置自身も損傷するおそれがあります。
- DVD-RAMディスクを、コンピュータのモニター、モータ、およびビデオまたはX線を使用する機器など、電磁波による電波障害の発生源の近くには置かないでください。DVD-RAMディスクのデータが損なわれることがあります。
- DVD-RAMディスクは直射日光を避け、ヒータその他の熱源から遠ざけて保管してください。
- DVD-RAMディスクは、室内温度-10℃~50℃、相対湿度3%~85%のほこりのない場所で保管してください。DVD-RAMディスクを使用するときは、温度勾配10℃/時間(1時間に10℃以内の温度変化)で室温(温度が5℃~35℃、湿度が15%~85%)に戻してから使用してください。
- DVD-RAMディスクは、常に添付の保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密封してください。
- DVD-RAMディスクのデータ面を手やもので触れないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。
- DVD-RAMディスクは、専用のプラスチック保護ケースに入れて水平または垂直な状態にして保管してください。
- DVD-RAMディスクの上にもものを置かないでください。
- 本装置に挿入するときは、ていねいに取り扱いってください。

## 付録C 別売品

本装置用に次の別売品を用意しています。お買い求めの際は販売店に品名と型番をお申し付けください。

尚、EF-8172はカートリッジから取り出し不可のため使用できません。

品 名		型 番
DVD-RAMディスクカートリッジ	4.7GB	EF-8171

## 付録D 推奨品

### <DVD-RAMディスクについて>

DVD-RAMディスクは、松下電器産業製または日立マクセル製を推奨します。

### <クリーニングキットについて>

クリーニングキットは、松下電器産業製レンズクリーナー(LF-K123LCJ1)、ディスククリーナー(LF-K200DCJ1)を推奨します。

## 付録E EXPRESSBUILDERの使用について

Express5800シリーズに標準で添付されているセットアップCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用する際は、次の点について注意してください。

詳しくは、本装置に添付されている別紙「EXPRESSBUILDERご使用時の注意」を参照してください。

- **EXPRESSBUILDERを起動できない**

- いったん本装置に接続しているインタフェースケーブルを取り外してから起動してください。

- **シームレスセットアップ中にService Pack CD-ROMのセットを要求された**

- Express5800シリーズ専用のセットアップツール「シームレスセットアップ」を使用すると、設定情報をあらかじめ入力しておくことで、自動でWindows 2000やWindows XPのインストールからセットアップまでを行うことができます(この間、Express5800シリーズ本体のそばでセットアップの状況を確認する必要がありません)。

ただし、Service Packを適用する設定にしたときには、「ここから無人インストールになります。・・・」というメッセージが表示されたときにService Pack CD-ROMを本装置にセットしてください。

Service Pack CD-ROMを本装置にセットせずに無人インストールを開始すると、インストールの途中でService Pack CD-ROMのセットを要求されます。Service Pack CD-ROMを本装置にセットしてください。

- **マスターコントロールメニューのセットアッププログラムを操作中にEXPRESSBUILDERのセットを要求された**

- WindowsのAutorun機能から起動する「マスターコントロールメニュー」内のセットアップメニューの中には、CD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットするよう要求してくるものがあります。本装置にセットしたEXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットしてからセットアップを続けてください。複数のCD-ROMドライブを搭載している場合は、メッセージに表示されるドライブレターを参照して、該当するCD-ROMドライブにセットしてください。



～ ✕毛欄 ～

## 商標について

本書に記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。  
Windows XPはMicrosoft® Windows®XP Professional operating systemの略称です。  
Windows 2000はMicrosoft® Windows®2000 Professional operating systemおよび  
Microsoft® Windows®2000 Server, Microsoft® Windows®2000 Advanced Serverの略  
称です。

## 海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 本製品を第三者へ譲渡・売却する際は必ず本書も添えてください。

N8151-32A

内蔵DVD-RAM装置取扱説明書

2003年4月 初版

日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番1号  
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2003

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

# NEC

N8151-32A 内蔵DVD-RAM装置  
取扱説明書

856-122946-001-A

本書は再生紙を使用しています。